

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701711		
法人名	株式会社 深田商店		
事業所名	八幡西ケアセンター和が家	ユニット名 ゆり	
所在地	福岡県北九州市八幡西区御開3-9-53		
自己評価作成日	平成23年8月26日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月16日	評価結果確定日	平成23年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を元に、ユニットの運営方針を掲げ、安心・安楽・安全に暮らせるような環境づくりと介護力の向上に力を入れている。地域との連携においても、東北の震災以後、災害時の応援体制を自治区会と築くなど、親交が図れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いや要望には出来るだけ応えていけるよう、また、家族との信頼関係をしっかりと築いていきたいとの思いを持って、ホーム長を始め、職員は日々取り組んでいる。毎日決まったことをやるのではなく、利用者のその日の意向を尊重しながら、日々の活動を決めるようにしている。また、日頃から活動量が落ちないように、生活リハビリにも力を入れており、それぞれの残存能力を活かしていけるような環境作りを目指している。

また、地域との連携も密に取れており、散歩の時等に挨拶を交わすことや、運動会や敬老会等の行事に参加したり、逆にホームの避難訓練に地域の方に参加してもらったりと、日常的に交流が図られており、利用者が地域の中の一員として、安心して生活できる環境となっている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、GH内の玄関、フロアに掲示し、毎朝のミーティングや部署カンファレンス時に唱和することで全職員に意識付けを行っている。	開設当初に作成し、それをフロアごとに毎朝唱和している。また、理念以外にも、それぞれのユニットの利用者の状況に合わせて基本方針も掲げており、理念と合わせて職員と共有している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に対し、事前準備から職員も参加し、地域住民と共に行事の実施に対し協力し、行事に利用者も参加させてもらっている	地域の行事(運動会や敬老会等)に積極的に参加したり、ホームの方に地域からボランティアに来てもらったりしており、利用者も地域の一員として交流できる機会をもっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の診療所や福祉事務所にパンフレットを置かしてもらい、相談窓口を地域に開放している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族・自治会長・民生委員・近隣施設職員(知見者)、地域包括支援センター職員(北九州市職員)が参加し、忌憚のない意見交換を行っている。会議内容は、部署ミーティングで職員に伝達され、会議議事録は、閲覧できるようになっている	会議には、自治会長や民生委員をはじめ、利用者の家族や地域内の他施設の職員、地域包括支援センター職員、主治医の参加も得ており、様々な情報を共有する場所としている。会議録も作成しており、いつでも誰でもが閲覧出来るようになっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センター職員(北九州市職員)が参加しており、事業所の実情やケアサービスの取り組みについて、忌憚のない意見を出していただいている	区役所の窓口には、センター長やケアマネジャーが出向いている。運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ており、情報共有や意見交換を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の部署ミーティングで身体拘束について話し合い、現在のサービスにおいて、身体拘束に該当するものはないが、身体拘束が発生している場合は、継続の必要性があるかの確認を行っている。玄関の施錠については、安全性の問題があって、継続している	身体拘束が必要な場合には、事前に家族等に説明をして、書面にて同意をもらうようにしている。現在車いすの安全ベルトを使用している方もおり、使用する場合には、必ず記録をとるようにしている。また、カンファレンスの際に、必要性について検討している状況である。	安全面を優先するあまり、認知症の方への権利擁護という面では、不適切な事例も見られます。施錠されている現状も含めて、リスクや弊害についても、家族等との共有認識を図りながら、ケアの質について検討を重ねていくことが求められます。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の申し送り時や部署ミーティングにおいて、現状の言葉遣い、接遇方法などのサービスにおいて、該当することが確認を行い、防止に努めている。		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前にご利用していた入居者がおられたため、権利擁護に関する制度理解と活用は周知している。また、玄関横にパンフレットを置き、ご家族への周知を行い、活用できるように支援している。	代表で数名が外部研修に参加しており、その内容を他の職員に伝達するようにしている。また家族に対しても、入居時に説明をするようにしており、パンフレット等も常備している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、変更時に、重要事項説明書を用いて、書面にて説明、確認を行い、理解・納得を図っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、利用者や家族等が意見、要望を伝えられるようにしている。また、その意見・要望はケアプランに反映させ、介護サービスに活かしている。	家族等が面会に来た際に、また、あまり面会に来られない方には電話にて、意見や要望を聞くようにしている。また、ホーム長と管理者が相談苦情窓口になっており、何かあればいつでも相談に乗れる体制を取っている。	家族が意見を言い難いということを理解し、アンケート実施等、より積極的に家族意見の収集に向けた働きかけを行うことが望まれます。
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署ミーティングや個別面談において、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを開催しており、その時に職員の意見や提案を聞くようにしている。職員もその機会には活発に意見を出し合っており、実際に出的意見を取り入れてもらい、改善してもらったこともある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1度、自己評価を行い、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、賞与算定に反映させている。また、代表者との面談は随時設けられ、職員が直接、意見を述べ、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備が行えるようになっている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たっては、性別や年齢等の制限を設けず、幅広く行っている。採用後は、研修期間を設け、まず業務に慣れることを優先し、研修期間でその個性を把握することで、自身の能力を發揮し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢、資格等はこだわらず、本人の介護に対する思いや人柄を見て採用するようにしている。また1~2ヶ月の研修期間を設けており、それぞれの能力を最大限に發揮してもらえようように配慮している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時に、「和が家職員心得」にて、職員に対して、人権教育・啓発活動を説明。研修期間においても、接遇方法の指導を通じて、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	接遇研修等を通じて、人権教育に努めている。	利用者の人権尊重についての見識を深めていくためにも、様々な視点から、人権教育・啓発活動に積極的に取り組み、職員間の意識を高めていくことが望まれます。

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	半年に1度の自己評価にて管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、北九州市社会福祉研修所主催の研修や部署ミーティングにおける認知症ケア研修にてトレーニングをすすめている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の特別養護老人ホームやグループホームとの連携の中で職員間の交流機会を設け、サービスの質の向上を図っている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご自宅に訪問し、不安や要望などを傾聴し、入居後の暮らしの説明を行うことで本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご家族に施設見学を行っていただき、介護サービス内容や行事の説明を行い、ご家族の不安や要望を傾聴しながら、コミュニケーションをとっている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護相談時に、ご本人様やご家族の不安や要望に対応できるサービスが他にないか考え、必要に応じて併設の居宅介護支援事業所のケアマネージャーと連携をとって対応している		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の残存能力を活用しながら、洗濯・掃除・配膳などの生活活動をともにし、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の日常生活の様子を面会時、電話連絡時、ご請求書などの書類配布時のお手紙にて、報告し、本人と家族の絆を大切に、季節行事に参加しやすいようにしている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や外出・外泊の制限を設けず、これまでのなじみの人や場所との関係が途切れないようにしている	入居前に通っていた美容室にそのまま続けて通ってもらったり、外食に出かけたり、また、ホームに友人が遊びに来る等、これまでの馴染みの関係が途切れないように支援している。	

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	午前・午後に利用者同士がかかわりを持てるレ クリエーションや体操を実施し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合える ような支援に努めている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去し、サービス利用(契約)が終了しても、医療機 関や入所施設との連携を必要に応じて行い、本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努 めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入所時に本人・ご家族より生活歴や今までの生 い立ちを聞き取り、一人ひとりの思いや暮らし方 の希望、意向の把握に努めている。	普段の何気ない会話の中から、それぞれの希望 や意向の把握に努め、それをかなえることが出来 るよう努めている。把握出来た内容については、 記録に残し、職員間で共有できるようにしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入所時にご本人・ご家族、サービス提供事業所・ 担当ケアマネージャーから、生活歴や馴染みの 暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用 の経過等を聞き取り、把握に努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	センター方式により、多方面から、一日の過ごし 方、心身状態、有する力等の現状の把握に努め ている		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ケアプラン作成時に、担当者会議を開催し、主 治医・本人、家族、ケアマネージャー・介護・看護 職員など必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護 計画を作成している	センター方式を使用して利用者の状態を把握し、 また事前に利用者や家族の意向を聞き取った上 で、担当者会議を経てケアプランを作成するよう にしている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしは生活日誌、健康状態や身体状 況については健康日誌、認知面・医療面で継続 して経過確認が必要な場合は経過記録など個 別記録を作成し、申し送りや部署ミーティングで職 員間で情報を共有しながら実践や介護計画の 見直しに活かしている		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している居宅介護支援事業所や通所介護事業所との連携により本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉ボランティアや自治区会・消防団と連携し、運動会などの地域行事の参加・自治区会や消防団との合同避難訓練を行い安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、治療箇所にあわせて、本人及び家族等の希望するかかりつけ医と事業所が連携し、医師からの指示に従いながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、利用者と家族の希望を聞きながら、ホームの協力医療機関や、これまでのかかりつけ医への受診について決めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師が配置されており、個々の利用者の健康面や精神面の変化を伝えて相談しやすい環境にあるため、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣救急医療機関と当事業所主治医との連携が築けており、入退院時には、救急医療機関医師より病状や治療方法などの説明が家族同様であり、主治医へも情報提供が行われる。また、入院中においても、病院関係者との間で利用者情報の共有が行われる		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、当事業所における看取りの方針を説明し、ご本人・ご家族に対し、早い段階から話し合いを行う。また、看取りが必要になった場合においては、主治医・本人・家族・看護師・管理者との間で再度、看取り時の対応方法を確認している。また随時、近隣事業所において発生している看取りについての取り組み方法を学し、地域の関係者とともに、支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や看取りの状況になった場合の対応方法についての説明を行っている。状況の変化に応じて、再度意向を確認しながら、その思いに沿ったケアを行っていく方針である。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、AEDを用いた急変時や事故時の応急手当や初期対応訓練を実施し、実践力を身に付けている		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所を災害時ハザードマップにて確認している。また、年2回の避難訓練は、地域の関係者も参加し、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っており、夜間想定 of 訓練実施や、消防による放水訓練も実際に行われている。また、地域の方々にも参加を呼びかけており、避難の際の誘導に参加してもらう等、協力を得ている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時研修で接遇において一人ひとりの尊重とプライバシーの確保を行うことを指導し、毎月の部署ミーティングにおいて、接遇方法において一人ひとりの尊重とプライバシーの確保が行えているか確認している	普段から、利用者のプライバシーの確保については充分注意しながら、カンファレンス時や、日常の中でも話をするようにしている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、利用者への声かけを多く行い、本人が思いや希望を表現しやすい環境づくりを行い、自己決定できるように働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	4交代のシフト業務において、職員同士の申し送りが朝・夕と行われるため、その際に、利用者状況を申し送り、都度、業務ベースを利用者一人ひとりにあうように修正を行い、希望に沿った支援を行っている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や趣味を考慮して、一緒に考え、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理・配膳・片付けを行う機会が持てるように声かけを行い、利用者のできるものややっていただくように支援している	配膳や片付け等に、利用者それぞれの力を発揮してもらっている。また、調理レクリエーションを月1回開催しており、「食」のプロセスを楽しむ機会としている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を確認し、看護職・栄養士と話し合い、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、利用者自身で口腔ケアが行えるように歯ブラシやうがいコップなどを準備し、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンに合わせた誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成しており、それぞれの利用者の排泄パターンを把握している。そのパターンに応じて、なるべく失敗がないように言葉かけや介助を行いながら支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維質の多い食材を使用した献立、腸内運動を促すマッサージにて、便秘予防、排泄支援を行っている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、夜間が職員が1ユニット1名となるため、夜間以外で実施している。入浴においては、利用者1名に対して職員1名で対応し、一人ひとりの希望やペースに合わせて入浴を楽しめる	それぞれの希望やタイミングを見計らって入浴を促している。拒否される方にも、声かけの方法を工夫しながら、気持ちよく入浴出来るよう誘導している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとりの生活習慣に合わせてばらばらです。日中に活動量が増えるように、レクリエーションや体操を実施し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が処方された薬の内容を把握し、確実に服薬できるようにしている。また、週1回の主治医の往診後に、薬や治療方法の変更があれば、職員間で周知できるようにしている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活活動の中でできることを見極め、できることが継続できるように日々の役割として習慣化し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、支援している。また、季節に合わせた行事を企画し、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>季節に合わせた外出支援を行っている。花見の名所へのお出かけ、土用の丑の日や月見などの季節行事に合わせた食事、お祭りや運動会などの見学を地域や家族の協力を得ながら実施しています</p>	<p>気候がいい時は近くの公園まで散歩に行ったり、ドライブや外出に出掛けたり等、ホームの中だけの生活にならないように支援している。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者一人ひとりの現金を事業所で管理し、ドライブや散歩など外出し、買い物が行える場合は、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>遠方にご家族がおられ、面会が頻繁には難しい場合は、本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアの壁飾りを季節ごとに利用者とともに作成し、季節感のあるフロア作りを行っている。室温湿度計を確認しながら温度・湿度の調整、カーテンや照明により明るさを調節し、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム内の随所に利用者の写真や季節の花の写真等が飾られており、それを見ながら楽しめるような空間となっている。また、利用者が思い思いの場所でゆったりと過ごすことが出来るような環境作りがなされている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファの配置や食卓の位置を利用者の歩行状態や精神面に合わせて変化させ、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、使い慣れたものや好みの持込ができるように施設基準よりも広めになっており、家具・寝具・衣類を持ってきていただき、本人様と相談して居心地よく過ごせるような工夫をして配置している</p>	<p>入居時に使い慣れたものを持ち込んでもらえるよう説明を行っている。実際に、自宅で使用していた家具等が持ち込まれており、なるべく自宅に近い環境となるように支援している。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各生活空間がわかりやすいように表示し、一人で行動できるように工夫している</p>		